

第4章 防災啓発・教育活動

1. あいぼう会活動報告

あいぼう会会長 正木和明

2006年12月11日に発足した「地震に強いものづくり地域の会（通称あいぼう会）」は3年目を迎えた。活動内容はこれまで同様、分科会（2009年度より防災ワークショップと称する）見学会、勉強会、講習会を柱とし、月に1回の活動（毎月第4水曜日）を行った。以下に活動スケジュールを示す。

○例会

2009年5月27日（水）13:30 - 18:00

第1部は総会であり、会計報告、活動方針について審議された。第2部は基調講演および活動報告会が一般参加者にも公開されて開催された。あいぼう会会長挨拶、愛知県防災局祝辞に続いて、基調講演「企業防災について語る」が東和不動産株式会社鈴木晴美氏により行われた。引き続き、第1WS「企業防災ビギナー：鈴木与士樹リーダー」、第2WS「実践的な避難訓練：佐々木務リーダー」、第3WS「緊急地震速報の利活用：竹山金伍リーダー」の1年間の成果が報告された。第3部は、交流会とし、あいち防災リーダー会と共催で「アレルギー支援ネットワークによる食品の紹介と試食」が行われた。

○勉強会

2009年6月24日（水）13:30 - 14:00 第5回勉強会「地震被害予測：正木会長」

10月28日（水）13:30 - 14:00 第6回勉強会「あいぼう会での経験と自社における防災対策：佐々木氏」

○見学会

2009年：8月26日（水）15:00 - 17:00 第5回見学会（愛知県庁）

12月16日（水）15:00 - 17:00 第6回見学会（東邦ガス）

2010年：2月24日（水）13:00 - 14:00 第7回見学会（名古屋市港防災センター）



写真1 愛知県庁見学会

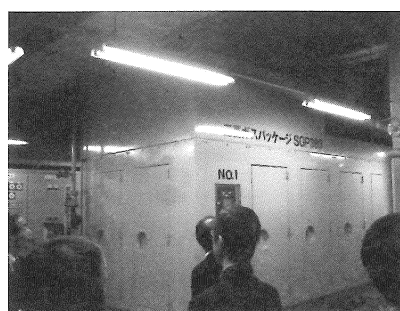


写真2 東邦ガス見学会

○防災WS

H21年度の分科会はこれまでと異なり、「防災力検定作成」を共通テーマとし、会員を、工場系、公共系、テナント系の3つのグループに分けて、それぞれのグループに特有の検定用問題を作成した。工場系は8カテゴリー98問の特に社員防災教育に役立つ問題を作成した。公共系は一般と専門に分け、69問を作成した。テナント系は初級編、中級編に分けて50問を作成した。

2009年6月24日(水) 14:00 - 15:30 第1回 防災WS
 7月22日(水) 13:30 - 15:30 第2回 防災WS
 9月30日(水) 13:30 - 15:30 第3回 防災WS
 10月28日(水) 14:00 - 15:30 第4回 防災WS (中間発表会)
 11月25日(水) 13:30 - 15:30 第5回 防災WS
 2010年1月27日(水) 13:30 - 15:30 第6回 防災WS
 2月24日(水) 14:30 - 16:30 第7回 防災WS
 3月24日(水) 13:30 - 14:30 第8回 防災WS (最終発表会)

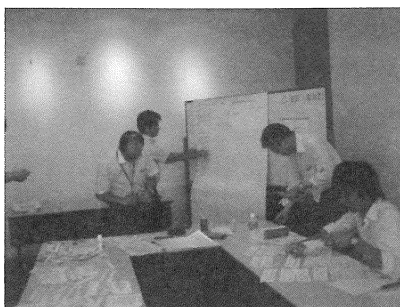


写真3 ワークショップの様子

○講習会

2010年3月24日(水) 14:30 - 15:30 第3回講習会 (AED講習会：早川委員)

○プロジェクト成果報告

ワークショップとは別に、任意の会員参加によってプロジェクト・チームを結成し、外部資金への申請も視野に入れた活動を新たに開始した。

2010年3月24日(水) 15:30 - 17:30 プロジェクト・チーム活動成果報告 (古瀬委員)

○あいぼう会運営委員会

会の運営をスムーズに図るために本年度も月に1回の運営委員会を開催した。

2009年6月24日(水) 16:00 - 17:30 第31回あいぼう会運営委員会

7月22日(水) 15:30 - 17:30 第32回あいぼう会運営委員会

9月30日(水) 15:30 - 17:30 第33回あいぼう会運営委員会

10月28日(水) 15:30 - 17:30 第34回あいぼう会運営委員会

11月25日(水) 15:30 - 17:30 第35回あいぼう会運営委員会

2010年1月27日(水) 15:30 - 17:30 第36回あいぼう会運営委員会

3月24日(水) 15:30 - 17:30 第37回あいぼう会運営委員会

あいぼう会の活動の特徴は、企業において防災を担当する責任者が手弁当で集まり、防災対策に関する情報交換を行いながら、互いに切磋琢磨して自己の能力を向上させる点にある。しかしながら、手弁当であるが故に、堅固な活動基盤を築く事が難しい。この問題を解決するために2009年度は事務局を地域防災研究センターに移し、事務局員の確保と予算処置が図れる体制を敷き、活動の強化を図った。21年度を通じての活動は活発に行われ、今後は更に発展できる見通しがついたと言える。

2. 社会人防災マスター養成講座の開講

正木和明

1. 基本構想

平成20年度文科省戦略的大学連携支援事業プログラム「工科系コンソーシアムによるものづくり教育の拠点形成」が採択された。このプログラムは、名古屋工業大学を申請大学として愛知工業大学、大同大学、豊田工業高等専門学校の4校が工学系コンソーシアムを構成し、H20～H22の3年間にわたり「ものづくり教育を推進する」事業である。

地域防災研究センターがH19年度に申請した学審の振興調整費「地域再生人材育成支援事業：社会人防災マスターの養成」は採択されなかったが、将来にはこのプロジェクトを元に大学院に防災コースを設置する構想をもっていることを大学上層部に伝えていたところ、上述の大学連携支援事業プロジェクトの愛知工業大学担当プログラムの一つとして実施するように要請があったので、これを引き受けることとした。H20年度12月ころより、基本構想の作成に着手した。基本的には前述の「地域再生人材育成支援事業」の考えを踏襲することとした。講座は地域の企業、自治体、コミュニティ等において防災活動に携わっている人を対象に開講され、高度の専門科目を修得してもらうことで防災の専門家（マスター）を養成することにした。このため講義は大学院と4年生の中間的なレベルとした。この養成講座は修了した受講生に対し、文科省認定の「履修証明書」を交付することにした。履修証明を取得するためには、120時間の受講が必要となる。このため90分授業を半期に15回受ける科目を基本とし、半期3科目、年6科目の講座を開講することにした。また、企業等で昼間は働いている社会人を対象とすることから、対面型の授業では受講生に負担が大きく、1年間を通しての受講が困難となることが危念されたので、授業はeラーニングを利用した授業とすることにした。全てをeラーニングにすると、受講生と教員との接触が少なくなり教育環境が低下するため、15回の授業のうち、5回を対面授業（スクーリング）、10回をeラーニングとすることにした。

H20年度 戦略的大学連携支援事業の取組事例

取組名称：社会人防災マスター養成講座
大学名：愛知工業大学（名古屋工業大学、大同大学、豊田工業高等専門学校）

○取組概要

本取組は、戦略的大学連携支援事業「工科系コンソーシアムによるものづくり教育の拠点形成（基幹校：名古屋工業大学）」における社会人教育プログラムの1つとして実施しているものです。
災害時に職場・地域において危機管理対応や被災者支援活動のリーダーとなる専門家を養成することを目的としています。本講座の流れを図1に示します。

図1 社会人防災マスター養成講座の流れ

注) 図は10月開始の例です。4月開始の場合は春季開設科目から受講します。

●取組の内容・ポイント

受講の対象者は大学入学資格を有する社会人で、自治体、企業、地域社会における防災対策や啓蒙活動に係る関係者を想定しています。
授業形態は月1回程度の対面講義、月3回程度のインターネット講義（図2参照）、防災フィールドワークにおける3回の現場実習（図3参照）です。
講師陣は、工科系コンソーシアムを構成している4校の教員と、企業の防災専門家2名からなっています。
全6科目（総授業時間135時間）のうち120時間以上を受講し、全ての科目に合格した場合、学校教育法に基づく履修証明書を交付します。

図2 防災学概論のインターネット講義

図3 防災フィールドワークの現場実習

●取組の成果

秋季、春季それぞれ10名を募集し、現在、合計20名が受講しています。履修生の中には受講成果を活用し、所属する企業や自治体等で通信・備蓄等の準備を行う者、防災に関する資格取得を志す者、共同研究を計画する者などが現れ、職場・地域の防災専門家を養成するという本プログラムの目的が達成されつつあります。講座が広く知られるようになり、履修希望者数の増加、多様化が期待されることから今後も継続・拡大を予定しています。

●学内外からの評価

平成21年度秋季履修生にアンケートを実施「講座内容は想像以上にレベルが高いが充実している」という評価を得ています。市民対象の一般向け講座からの差別化を図り「履修証明書交付」による防災専門家（マスター）を養成するという本講座の目的が高く評価されています。中央教育審議会大学分科会大学規模・大学経営部会の審議において、本取組が取り上げられています。

図1 社会人防災マスター養成講座の概要

2. 大学連携による講座構成

本プロジェクトは戦略的大学連携支援事業の一環として実施されるため、講師は4つの連携校が分担することにした。また、企業の防災担当者を主として対象とすることから、実業界からも講師を集めることにした。以下に担当科目、担当教員、所属を示す。

防災学概論	正木和明（愛知工業大学教授）
企業防災論	建部謙治（愛知工業大学教授） 内藤克己（元清水建設名古屋支店部長、愛知工業大学大学院非常勤講師）
建築防災論	岡田久志（愛知工業大学教授） 今岡克也（豊田工業高等専門学校教授）
地域防災論	岡田成幸（名古屋工業大学教授） 鷺見哲也（大同大学教授）
防災フィールドワーク	今井則久（（財）中部電気保安協会）
防災リテラシー	倉橋奨（愛知工業大学地域防災研究センターポスドク研究員） 森田匡俊（名古屋大学ポスドク研究員）

以下に講座の概要を示す。

■防災学概論（災害のしくみ・災害事例・災害対策）

東海地域は我が国で地震発生確率が最も高い地域の一つであり、地域や企業において防災対策を積極的に推進できる人材が求められています。本講義は、防災のしくみ、この地域の災害の特徴、災害軽減対策など災害に関する基礎項目を概観します。

内容は学部生4年生のレベルであり、マイスターとして最小限の知識を学び、他科目の各論を理解できるための基礎学力を習得することを目的としています。

■企業防災論（防災診断・BCP・防災マニュアル）

東海地域は我が国で有数のものづくり企業の多い地域であり、事業継続計画に基づく防災対策を積極的に推進することによって、早期に事業を再開することが企業には求められており、その結果がひいては地域の活性化につながり地域貢献ができることとなります。

本講義は、事業継続計画の基本構想や事例、防災診断・防災カルテによる企業の現状分析、防災マニュアル作成・防災GIS活用など、経営者・防災担当者に求められる知識を習得することを目的としています。

■防災フィールドワーク（現場見学・リーダーシップ能力）

防災担当者には専門的知識だけでなく、社員や住民の支持を得て専門知識に裏づけされた冷静な行動を取ることが出来るリーダーシップ能力が要求されています。

本講義では、3回にわたり現場施設の訪問による現地学習を行い、現地担当者との意見交換を通じて実践的学習を行います。防災施設の確認、災害規模予測の提案、ならびに、災害復旧に関する防災組織編成の学習、などを通じて、現実に発生した災害に対して職場・地域においてリーダーシップを発揮しうる専門者の育成、復旧メンバーの養成などをめざします

■建築防災論（地震・火災・事務所・施設・設備・木造住宅）

震災時に企業の事務所・工場などの施設や地域の木造住宅などの構造安全性を確保することは災害軽減対策

の基本であり、また、施設内の設備や非構造部材の耐震性を確保することは非常に重要である。本講座では過去の建物被害の特徴を踏まえて、最新の建築物の耐震技術や防火規定などを紹介し、建物防災の専門的な知識の修得を目指します。

前半では、建築物（木造・RC造・鉄骨造）の耐震安全性と防火安全性について、地震や火災の発生メカニズム、それぞれの建築物の主要な被害、規定の変遷、被害軽減対策などについて学びます。後半では、事務所や工場などの施設と設備について、地震による被害事例、被害軽減対策、耐震補強対策などについて防災担当者として必要な基本的知識について解説します。

■ 地域防災論（リエゾン・ハザードアセスメント・リスクマネジメント）

私たちは一人一人が、世帯・自主防災組織等の地域コミュニティ・事業所・自治体等々の何らかの社会的組織の一員として日常生活において地域と強いつながりをもっており、災害時にはそれぞれが自助・共助・公助という形で役割を担っています。それぞれの組織の役割分担と連携を理解することで、地域防災は円滑かつ効果的に機能します。

本講義は、主として地震災害・火災・風水害を対象とする防災対策について、地域との関わりで解説します。また、実践的な防災の考え方を身につけることを目標におき、公表資料を用いたトレーニング等を実施します。

■防災リテラシー（防災教育・防災GIS・WebGIS）

防災対策を実践的に実行するためには災害に関する知識や情報を社員に十分に理解させて始めて可能になります。防災担当者には、知識や情報を分かりやすくかつ正しく伝えることが出来る技術・手法の修得により社員とのリスクコミュニケーションや企業のリスクマネジメントを積極的に行える能力が求められています。

本講座では実習形式で、パワポイント、防災GIS、WebGISなどの技術を修得し、企業トップや社員に分かりやすくかつ正しく情報・知識を伝えることが出来る防災担当者を育成します。

3. 募集

H21年8月より募集を開始したところ、11名の応募があった。受講希望者に対しては小論文による審査を実施した。

図2 講座募集要項

4. スケジュール

以下に授業スケジュールを記す。

H21年10月	6日	開校式およびガイダンス	および	第1回目対面授業
	13日	eラーニング授業		
	20日	eラーニング授業		
	27日	eラーニング授業		
11月	10日	第2回目対面授業		
	17日	eラーニング授業		
	24日	eラーニング授業		
12月	1日	eラーニング授業		
	8日	第3回目対面授業		
	15日	eラーニング授業		
	22日	eラーニング授業		
H22年1月	12日	eラーニング授業		
	19日	第4回目対面授業		
	26日	第5回目対面授業		
2月	2日	特別研究中間発表会		

5. 受講生の属性

11名の応募者があったが1名から取り消しがあり、10名の受講生で授業が開始された。受講生の属性は以下の通りである。

・所属	企業関係者	8名
	教育関係者	1名
	個人企業主	1名
・年齢	20歳～29歳	2名
	30歳～39歳	2名
	40歳～49歳	1名
	50歳～59歳	3名
	60歳以上	2名

6. 講座に対する評価

文部科学省高等教育局高等教育企画課 高等教育政策室から、本養成講座を文科省中教審大学分科会大学規模・大学経営部会の資料「大学における社会人の受け入れの推進について（参考資料）」中の「魅力ある教育プログラムの提供」に紹介された9事例の一つとして採用する旨の連絡があった。社会人を対象としていること、「eラーニングを採用していること」が注目されたと言える。その後、別の部署からも資料として採用するとの通知があった。この養成講座が文科省で高い評価を受けていることを示している。

愛知工業大学

社会人防災マイスター養成講座

対象:大学入学資格を有する社会人(自治体, 企業, 地域社会における防災対策や啓蒙活動に係る関係者を想定)

募集定員:10名

目的:自治体, 企業, コミュニティーにおいて, 直接・間接的に防災対策や啓蒙活動に係る関係者に対して, 防災関連科目の講習を通じて, 防災力の向上を図る。

内容:月1回の講義と, eラーニング, フィールドワーク等を利用して, 地域や企業における高度防災技術者の養成を目的とした全6科目(「防災学概論」, 「企業防災論」, 「防災フィールドワーク」, 「建築防災論」, 「地域防災論」, 「防災リテラシー」)を実施。

学習成果の評価:修了者には学校教育法に基づく「履修証明書」を交付

※ 履修証明書の交付・不交付とは別に、各学期最終週において、試験及び履修生個々に課した課題研究の発表審査を行い、成績評価を行う予定

期間:1年間

講師:「工学系コンソーシアム」を構成する名古屋工業大学, 大同大学, 豊田工業高等専門学校, 愛知工業大学の教授陣, 企業関係者

受講料:無料

図3 文科省への提出資料

7. まとめ

本養成講座は一般市民を対象とした公開講座ではなく、文科省の「履修証明書取得講座」である。そのため年間120時間以上の授業が必須である。このために授業のレベルは高く、また出席、宿題提出が厳しく管理されている。また、6科目を横断する特別研究の発表も義務付けられている。受講生の評価は「レベルが高く大変であるが充実している」との評価を受けている。今後さらに充実する必要がある。

3. 緊急地震速報を利用した避難訓練

正木和明

平成 21 年 10 月 29 日に防災訓練が実施された。これは平成 21 年度に消防法の改正がなされたため、地震を想定したこれまでの訓練を変更し、消火訓練を含む防災訓練として実施されたものである。具体的には、これまで行われていなかった消火器による消火訓練と消火栓に接続した消防ホースによる放水訓練を実施した。学内の自主消防隊を想定したものであり、部署ごとに担当者を決めて、学内の数か所でこれらの訓練を実施した。その他の訓練については従来とほぼ同じ内容で実施された。緊急地震速報により震度 5 弱が予測され、緊急放送が学内に流れた。八草キャンパスの他に、本山キャンパス、電子情報専門学校、名電中学・高校キャンパスにも一齐に速報が配信され、それぞれのキャンパスでは各校のマニュアルに従って訓練が実施された。当日は数校の大学から見学者があり、訓練終了後に訓練に関する意見交換会・質疑応答がなされた。

参加者は、大学（学園も含む）2,696 人、専門学校 99 人、高校 1,549 人、中学 632 人、合計 4,979 人であり、これは例年とほぼ同じ人数である。

避難訓練は今回で 4 回目であるが、着実に成果は上がっている。その一方でマンネリ化してきたとの意見もあり今後検討が必要である。学内の耐震補強は着実に進んでいる。21 年度はいくつかの講義棟が耐震補強された。しかし、防災マニュアルの作成は進展していない。早急に作成する必要がある。



写真 1 放水訓練の様子



写真 2 消火訓練の様子

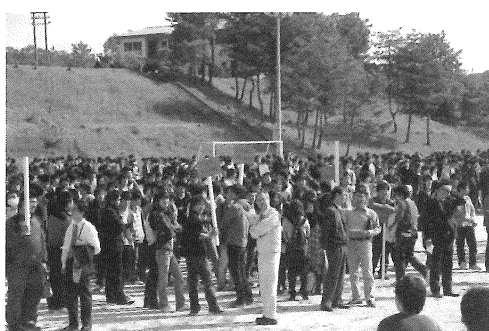


写真 3 避難場所の様子

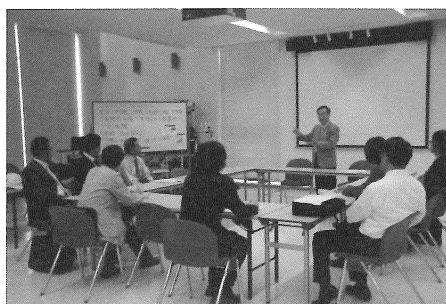


写真 4 見学者に対する説明会の様子

4. 小学校との地震防災に関する第2回目の合同研究会開催

建部謙治

平成 21 年 7 月 11 日 (土) 9:30 ~ 13:00、愛知工業大学地域防災研究センターにおいて地域との連携を図るため、近隣の小学校 4 校と地震防災に関する合同研究会を昨年に引き続き開催した。

今回の合同研究会は昨年と同様に、小学校校区の地震時における通学路の危険箇所を主に 6 年生児童が現地調査を行い、その成果を持ち寄り、大学の施設においてそれぞれの研究成果を発表するというものである。

第 1 部は、各校の発表に対しては防災専門家として地域防災研究センタースタッフがアドバイスをを行った。また、第 2 部では、岡崎市赤十字奉仕団・あいち防災リーダー会の協力の下に、避難所における非常食の試食体験を行った。

参加者は保見地区 4 小学校の代表児童約 30 名と学生ボランティアを含むスタッフ等約 30 名、計 60 名程度であった。

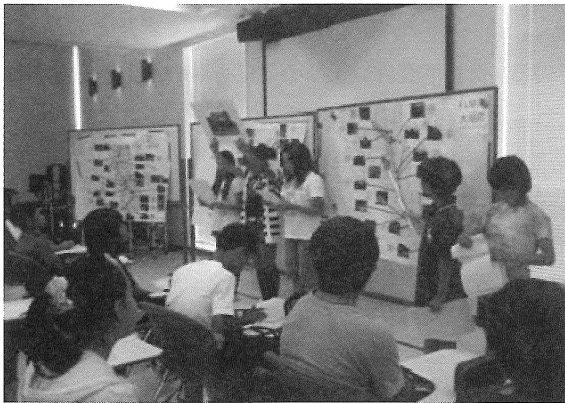


写真 4 校による発表風景、下は非常食の試食風景

5. 学生ボランティア「アイテックス」活動報告

会長 弘重忠俊・顧問 正木和明

平成 21 年度も引き続き、「大学コンソシアムせと」の「大学生によるまちづくり活動応援助成金」に応募、採択されたので、活動資金を得ながら活動を継続した。以下に 21 年度を通じての活動を列挙する。

(1) 保見 4 小学校防災研究会

2009 年 7 月 11 日に本センターにおいて大畑小学校、伊保小学校、東保見小学校、西保見小学校の代表児童 30 名と先生が参加して「通学路の地震時安全調査」発表会が実施された。その後、岡崎市赤十字奉仕団、あいちぼうさいリーダー会による非常食試食体験が行われたが、アイテックスはその手伝いを行った。

(2) 愛工大体験ワールド

2009 年 8 月 1 日に本センターにて小学校 1 年生～4 年生を対象とした体験ワールドが行われたがその支援スタッフとして参加した。地震体験や段ボールによる簡易避難所作りを指導した。

(3) 掛川小学校出前講座

2009 年 9 月 1 日に瀬戸市掛川小学校で出前講座を行った。正木教授が講義を行い、その後段ボールによる簡易避難所作りを指導した。



写真 1 掛川小出前講座

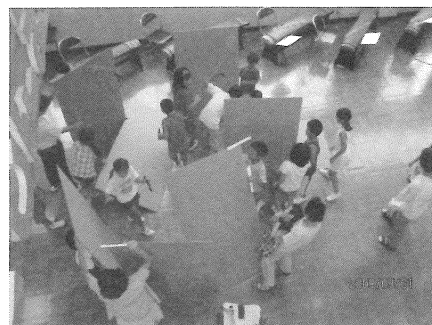


写真 2 段ボール間仕切り作成

(4) 大浜小学校出前講座

2009 年 10 月 7 日に碧南市大浜小学校で出前講座が実施され、正木教授が講義を行い、その後段ボールによる簡易避難所作りを指導した。



写真 3 大浜小学校出前講座

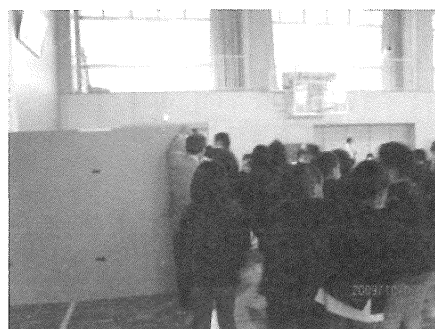


写真 4 段ボールの組み立て作業風景

(5) 日進小学校出前講座

大浜小学校出前講座を見学した日進小学校より出前講座の要請があり、大浜小学校と同じ内容で実施された。

(6) 愛フェス 2009 出展

2009年9月6日にモリコロパークで実施された同フェスティバルにセンターが出展したのでその手伝いを行った。

(7) 瀬戸市消防出初め式

2010年1月10日にパーティセとで行われた瀬戸消防署の出初め式に出展した。手回しぶるるによる建物振動実験を市民に見せるとともに断層せんべい・地震カレンダーを配布し、市民の防災啓蒙活動を行った。



写真5 消防出初め式



写真6 断層せんべいで説明

(8) 最終報告会

2010年3月パーティ瀬戸でコンソシアム成果発表会があり、会長が成果を発表した。

6. 公開講座

正木和明

愛知工業大学本山キャンパス公開講座には講座開始当初より「地域防災研究センター講座」として参加している。当初は有料ということもあり講座参加者は10名程度であったが、昨年度より「地域防災研究センター講座」は、地域貢献型講座として本山キャンパス講座の目玉であると位置づけられ無料となった。このため講座参加者は毎回35名程度となり、人気講座となってきた。講座は毎年、春季と秋季に分かれており、それぞれ3回程度開催される講座を習得することになっている。21年度は下記の講座が開催された。

○本山キャンパス特別講座地域防災研究センター講座「地震!その時どうなるか?」

場所：本山キャンパス

時間：10:00～11:30

対象：一般市民

講師：正木地域防災研究センター長（都市環境学科・教授）

5月9日：東海地震発生シナリオ

6月6日：我が家の地震対策

7月4日：緊急地震速報と警戒宣言

○本山キャンパス特別講座地域防災研究センター講座「親子そろって地震を科学しよう」

場所：本山キャンパス

時間：10:00～11:30

対象：小学校4～6年生と保護者（親子で参加）

講師：正木地域防災研究センター長（都市環境学科・教授）

7月25日：地震の話と実験

○本山キャンパス特別講座地域防災研究センター講座「都市防災論」

場所：本山キャンパス

時間：10:00～11:30

対象：一般市民

講師：正木地域防災研究センター長（都市環境学科・教授）

10月10日：災害の時代変遷～都市災害の出現～

11月7日：都市災害の実例～多様化する都市災害～

11月28日：都市災害に立ち向かう～住民の力で防災力向上を～

本山キャンパス特別講座 **受講料無料**

●市民講座「地震!!その時どうなるか?」
地震からどうやって我が身や家族を守るか、本学地域防災研究センター長が実践的な地震対策を解説します。
【講師】愛知工業大学地域防災研究センター長 正木 和明
■開講日/①5月9日(土)「東海地震発生シナリオ」
②6月6日(土)「我が家の地震対策」
③7月4日(土)「緊急地震速報と警戒宣言」
■開講時間/10:00～11:30
■募集定員/50名

●親子講座「親子そろって地震を科学しよう」
イラストでやさしく地震の科学を説明します。また、振動台を使った家具転倒防止実験やペットボトルを用いた液状化実験、紙の家屋模型による揺れの違いの学習、緊急地震速報の体験も行います。
【講師】愛知工業大学地域防災研究センター長 正木 和明
■開講日/7月25日(土)
■開講時間/10:00～11:30
■募集定員/25組(50名)
■対象者/小学校4～6年生と保護者(親子で参加)
*お申込みの際は保護者名とお子様のお名前、学年をお書き下さい。

図1 春季講座案内

地域防災研究センター講座 **受講料無料**

都市防災論
都市化が進み災害の危険性は増大している。大都市名古屋の災害について考える。
【講師】愛知工業大学地域防災研究センター長 正木 和明
■開講日/10月10日(土)「災害の時代変遷」
—都市災害の出現—
11月7日(土)「都市災害の実例」
—多様化する都市災害—
11月28日(土)「都市災害に立ち向かう」
—住民の力で防災力向上を—
■開講時間/10:00～11:30
■募集定員/80名

図2 秋期講座案内

7. イベントへの出展

正木和明

(1) 第8回産学官連携推進会議への出展

平成21年6月21日(土)～22日(日)の両日、京都国際会議場で開催された第8回産学官連携推進会議へ出展した。全国の国公立大学および早稲田、立命館等有力私大が約100校程度参加する会義であり、展示場は盛況であった。地域防災研究センターは、エアアイシステムサービス㈱と共同で、緊急地震速報の配信事業を展示した。今年度が愛工大として初の出展であり、本センターがその突破口を開いた意義は大きく、また全国の有名大学が出展する中、センター事業を参加大学の関係者にアピールできたことは評価できる。



写真1 第8回産学官連携推進会議



写真2 出展会場

(2) 日中大学フェアへの参加

2010年1月29(金)～30日(土)の両日、東京国際フォーラム会場において、日本側48大学、中国側39大学が参加した「日中大学フェア」が開催された。本学研究支援本部が中心となり、耐震実験センター、学術フロンティア、エコ電力センターと共に、地域防災研究センターも共同で出展した。日中関係に特に関心が高い本学は、ピンポン外交、東南大学との姉妹校協定を前面に掲げて、写真3に示す「愛知工業大学中国人留学生研究紹介」冊子を作成し、配布するなど強烈にアピールした。この冊子は本センターのリサーチアシスタントが中心となって作成したものである。また、外国人が多く参加することも考慮して研究支援本部が中心となって英文紹介冊子を作成した。写真4に本センター紹介ページを示す。



写真3 日中大学フェアで配布した中国留学生研究紹介冊子

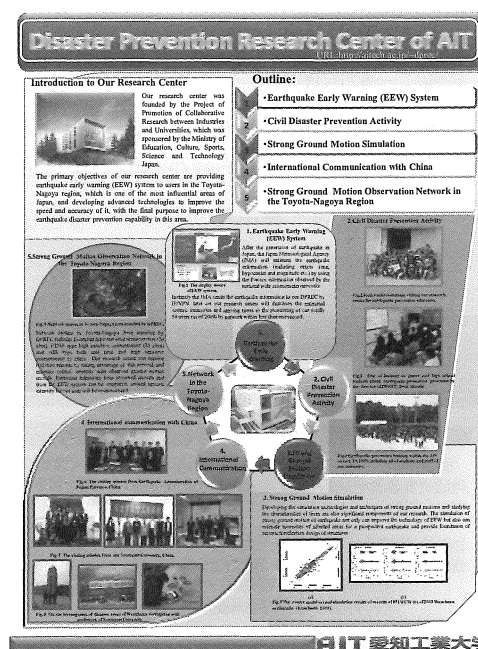


写真4 本センター紹介ページ

●講演会等リスト

【正木和明】

- ・本山キャンパス特別講座市民講座「地震!! その時どうなるのか?」, 本山キャンパス, 2009年5月9日, 6月6日, 7月4日
- ・第3回地域防災防犯展大阪「愛知工業大学緊急地震速報配信システム紹介」, インテックス大阪, 2009年6月5日
- ・豊田市自主防災会リーダー養成講座「地震被害を減らすための工夫と実践～地震被害の仕組みと対策を考える～」, 豊田市文化会館, 2009年6月27日
- ・本山キャンパス親子講座「地震を科学する」, 本山キャンパス, 2009年7月25日
- ・瀬戸市掛川小学校出前講座「地震を学ぼう」, 掛川小学校, 2009年9月1日
- ・愛知工業大学地区懇談会オープンフォーラム「本学は全国の大学で最初に緊急地震速報を導入しました」, 四日市市都ホテル, 2009年9月12日
- ・東浦町・阿久比町防災リーダー養成講座「地震のメカニズム」, 東浦町勤労福祉会館, 2009年10月3日
- ・愛知県被災建築物危険度判定士講習会「地震の話」, ライフポート豊橋, 2009年10月6日
- ・碧南市大浜小学校出前講座「地震について学ぼう」, 大浜小学校, 2009年10月7日
- ・愛知工業大学本山キャンパス公開講座「地域防災研究センター講座: 都市防災論, 災害の時代変遷, 都市災害の実例, 都市災害に立ち向かう」, 本山キャンパス, 2009年10月10日, 11月7日, 11月28日
- ・名古屋市中村生涯学習センター平成21年度後期主催講座「みんなで協力して、地震に負けない学区にしよう～豊臣学区にて～」, 豊臣コミュニティセンター会議室, 2009年10月19日
- ・豊明市平成21年度防災講演会「地震について学ぼう」, 豊明市商工会議所, 2009年11月8日
- ・神奈川大学エクステンション2009年度実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座「地域・企業・家庭防災カルテと防災教育」, 神奈川大学U K ポートスクウェア (MM21クイーンタワー), 2009年11月12日
- ・碧南市日進小学校出前講座「親子で学ぶ地震防災教育講演会」, 「地震について学ぼう」, 日進小学校, 2009年11月19日
- ・名古屋市消防局第21回防火管理者協議会講演会「東海・東南海地震のメカニズムと防災対策」, 中区消防署鯉ホール, 2009年12月3日

【入倉孝次郎】

- ・ K. Irikura, S. Kurahashi and K. Miyakoshi, Verification and Applicability of "Recipe" of Predicting Strong Ground Motions for Inland Crustal Earthquakes. The IASPEI General Assembly in Cape Town, 10-16 January 2009
原子力安全フォーラム2009, 東洋大学井上円了ホール, 2009年2月24日
Experts' meeting on Guidance for Evaluation of Seismic Hazards for Nuclear Installations (DS-422), Nuclear and Industrial Safety Agency, Ministry of Economy, Trade and Industry, Tokyo, Japan. 2009年2月26日～2月27日
- ・地震防災に関する講習会, 「強震動予測レシピは地震災害の軽減に役立つのか ー中越沖地震, 岩手・宮城内陸地震など最近の被害地震に学ぶー」愛知工業大学 本山キャンパス, 2009年3月6日
- ・ K. Irikura, Best-fit Source Model for Simulating Strong Ground Motions from the 2007 Niigata-ken Chuetsu-

oki earthquake. 8th International Workshop on Seismic Microzoning and Risk Reduction (8IWSMRR), Almeria, Spain, 15-18 March, 2009

・ Kojiro IRIKURA, Katsuhiko KAMAE, Ken MIYAKOSHI and Susumu KURAHASHI: Verification of Methodology for Predicting Strong Ground Motion Based on Characterized Source Model –Learning from Recent Disastrous Earthquakes in Japan-, SSA 2009 Annual Meeting, Monterey, California, 8-10 April

・入倉孝次郎, 地震動予測研究の到達点と次世代型への脱皮, 金井清先生追悼シンポジウム, ー地震動研究の“これまでとこれから”ー, 東京大学山上会館, 2009年4月21日

・緊急地震速報国際ワークショップ, 'Basic study for developing the Earthquake Early Warning system for great earthquakes - case of ground motions in large crustal earthquakes -', Kyoto, Japan. 22, April 2009

・入倉孝次郎, 宮腰研, 倉橋奨, Petukhin Anatoly, 山本容維, 釜江克宏, 川辺秀憲: Best-fit Source Model for Simulating Strong Ground Motions from the 2007 Niigata-ken Chuetsu-oki earthquake, 地球惑星科学連合大会, 幕張, 千葉 2009年5月16日～5月21日

・愛知工業大学開学50周年記念シンポジウム, “南海トラフの巨大地震に備えた企業防災力向上の取り組み” 基調講演, 「中越沖地震, 岩手・宮城内陸地震, 中国四川地震など最近の被害地震に学ぶ地震災害軽減の方策」 2009年6月4日

・ Kojiro Irikura, Susumu Kurahashi and Ken Miyakoshi: New developments of strong motion prediction learning from recent disastrous crustal earthquakes, International Symposium on Earthquake Seismology and Earthquake Predictability, July 5 to 9, Beijing, China.

・ Kojiro Irikura, Lessons for earthquake disaster prevention learned from recent disastrous earthquakes, 2009 Suruga-wan earthquake, 2008 Wenchuan earthquake, 2007 Chuetsu-oki earthquake, (駿河湾の地震, 四川地震, 中越沖地震など最近の被害地震に学ぶ地震防災のあり方), 日墨400周年記念シンポジウム, けやき会館, 2009年10月2日～10月3日

・入倉孝次郎, 倉橋奨: 長大断層地震のための強震動予測レシピー四川大地震の強震動記録による検証ー, 日本地震学会2009秋季大会, 京都大学百周年記念ホール, 京都 2009年10月21日

・入倉孝次郎: 平成19年(2007年)新潟県中越沖地震2周年シンポジウム, 「活断層評価と重要構造物の安全性」, 日本活断層学会2009年秋季学術大会, 東洋大学 1号館

・ Kojiro Irikura, Conference on Building and Protecting in Seismic Areas, "Development of Seismic Hazard Assessment in Japan- Lessons Learned from recent disastrous earthquakes-"23, November 2009, Naples, Italy.

(財)大阪科学技術センター総務委員会講演, 「最近の被害地震から学ぶ地震・地震動予測の問題点および地震災害軽減のために取り組むべき課題」, 大阪科学技術センタービル, 2009年12月2日

・ Kojiro Irikura, Susumu Kurahashi and Kazuaki Masaki., Hokudan 2010 International Symposium on Active Faulting, "New method for Earthquake Early Warning System available for magnitude 8-class earthquakes", Hokudan Earthquake Memorial Park

in Awaji City, Awaji Island, Japan, Jan. 17-21, 2010.

・入倉孝次郎, 第9回国土セイフティネットシンポジウム～震度の一步先を目指して～, 「直下地震や巨大地震の減災に役立つ緊急時地震速報システムの構築をめざして」, パシフィコ横浜, 2010年2月4日,

・ Kojiro Irikura, The 9th International Workshop on Seismic Microzoning and Risk Reduction (9thIWSMRR), "A Recipe for Microzoning Aimed to Earthquake Disaster Prevention", Cuernavaca, Mexico, 21-24 February, 2010

・入倉孝次郎, 笹谷先生記念強震動研究シンポジウム, 「笹谷さんとともに歩んだ「地震の揺れ」 解明への旅」, 北海道大学学術交流会館, 2010年3月6日

【建部謙治】

- ・豊田市立東保見小学校講演「地震を理解し安全対策を」, 豊田市立東保見小学校, 2009年6月12日

【曾我部博之】

- ・曾我部博之, 「応答曲面法を用いた弾塑性構造物のロバスト最適化」, 理論応用力学講演会, pp.149-150, 2009年6月
- ・曾我部博之, 「シックスシグマ設計に基づく弾塑性骨組の構造最適化」, 日本建築学会大会学術講演梗概集(東北), pp.367-368, 2009年8月

【奥川雅之】

- ・サイエンスキャンプ2009 ロボット製作講座「レスキューロボットとは」, 岐阜県先端科学技術体験センター(サイエンスワールド), 平成21年7月23日～24日

【廣内大助】

- ・気象DIG実習, NPO法人ウエザーフロンティア東海DIG講習会講師, 天白コミュニティセンター, 2009年1月24日
- ・根尾谷断層を探る, 日本地震学会教員サマースクール2009講師, 名古屋大学, 根尾谷断層, 2009年8月5, 6日(教員免許状更新講習「地震と活断層」を兼ねる)
- ・地図から災害を考えるー防災地理教育講座ー, 教員免許更新講習講師, 信州大学, 2009年9月12日
- ・名古屋の活断層直下型地震を考える(過去の検証から将来予測へ), 新修名古屋市史「自然編」講演会「名古屋の自然災害と自然環境」, 名古屋市市政資料館, 2009年11月21日

【安江健一】

- ・中津川市民大学講座「中津川市の活断層と地形」, にぎわいプラザ(岐阜県中津川市), 2009年11月6日
- ・ふるさと学習プログラム「阿寺断層観察会」, 岐阜県中津川市坂下, 2010年2月28日, 3月6日

●各種委員

【正木和明】

- ・中部近畿地方鉱山保安協議会委員
- ・愛知工業大学サイエンス大賞審査委員長
- ・岐阜県高等学校総合文化祭自然科学系部活動研究発表会・交流会審査委員長
- ・充填技術センター技術委員

【入倉孝次郎】

- ・日本学術会議連携会員
- ・独立行政法人防災科学技術研究所客員研究員
- ・内閣府原子力安全委員会専門委員
- ・文部科学省地震調査推進本部地震調査委員会委員、強震動評価部会長
- ・文部科学省地震調査推進本部地震調査委員会委員会総合部会委員

- ・文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター専門調査員
 - ・文部科学省公募選定技術審査専門員
 - ・国土交通省「建築住宅性能基準検討会」委員
 - ・独立行政法人海洋研究開発機構南海トラフ巨大地震連動性評価研究運営委員・研究推進委員
 - ・独立行政法人防災科学技術研究所「地震瞬時速報利用検討会」委員長
 - ・独立行政法人防災科学技術研究所強震観測事業推進連絡会議委員
 - ・独立行政法人原子力安全基盤機構試験研究等外部評価委員
 - ・独立行政法人原子力安全基盤機構安全研究評価委員会委員
 - ・独立行政法人防災科学技術研究所ひずみ集中帯の重点的調査観測・研究に関する運営委員会委員
 - ・独立行政法人大学評価・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会専門委員
- リアルタイム地震情報利用協議会強震動のデータのリアルタイム利活用及び超深層観測データの利活用ニーズに関する調査・研究推進委員会議長
- ・財団法人原子力安全技術センター「地震ハザード評価に関する基礎的・技術的調査」委員
 - ・財団法人原子力安全技術センター「耐震検討会」委員
 - ・財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構「災害対策全書編集企画委員会」委員
 - ・社団法人日本地震学会 IASPEI 委員会委員
 - ・社団法人日本地震学会災害調査委員会委員
 - ・社団法人日本地震学会倫理委員会委員
 - ・社団法人日本地震学会代議員
 - ・財団法人地震予知総合研究振興会地震防災評価機構運営会議委員
 - ・財団法人地震予知総合研究振興会サイスマテクトニクス研究会委員
 - ・財団法人震災予防協会監事
 - ・日本活断層学会監事
 - ・財団法人地域地盤環境研究所評議員
 - ・国立大学法人京都大学（桂）総合研究棟Ⅲ（物理系）等施設整備事業提案審査委員会委員

【建部謙治】

- ・豊田市都市景観審議会会長
- ・日本インテリア学会東海支部長
- ・日本建築学会東海支部東海賞選定委員会委員長
- ・愛知県防犯コンテスト審査委員会委員

【曾我部博之】

- ・日本建築センター 電算プログラム審査委員会委員
- ・愛知県建築住宅センター 耐震診断判定部会及び耐震改修評定部会委員
- ・日本建築学会 論文集委員会委員
- ・日本建築学会 ソフトコンピューティング応用小委員会委員
- ・日本建築学会 構造設計における冗長性と性能最適化小委員会委員
- ・日本計算工学会 第5研究分科会委員

【奥川雅之】

- ・レスキューロボットコンテスト実行委員会副実行委員長
- ・レスキューロボットコンテストシーズ実行委員会副実行委員長
- ・日本機械学会機械力学・計測制御部門「スマート構造システムの将来技術と実用化に関する研究会(A-TS10-40)」主査
- ・日本機械学会機械力学・計測制御部門「診断とメンテナンス技術研究会(A-TS10-39)」委員
- ・計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会プログラム委員
- ・岐阜県ロボット産業推進協議会アクションプラン評価部会委員
- ・岐阜高専・各務原市連携事業ツアーガイドロボット開発推進委員会「ツアーガイドロボット開発プロジェクト」委員
- ・TPIP ユーザーコミュニティ主査

【阿部亮吾】

- ・2009年度人文地理学会 大会準備委員
- ・公益信託 愛・地球博開催地域社会貢献活動基金(あいちモリコロ基金) 予備審査員

【廣内大助】

- ・日本地理学会災害対応委員会委員
- ・日本活断層学会渉外・広報委員会委員
- ・地球惑星科学連合教育問題検討委員会委員
- ・国土交通省国土地理院 活断層情報整備検討委員会委員
- ・独立行政法人 産業技術総合研究所活断層・地震研究センター客員研究員
- ・須坂市誌「自然編」編纂委員会委員

【安江健一】

- ・日本活断層学会 編集委員会委員

●外部資金 獲得状況

【正木和明】

- ・正木和明, 王欣, 「中国四川地震の強震動予測と構造物被害の関係に関する研究」, 40万円, 愛知工業大学大学院高度化推進経費, 2009年6月～2010年3月
- ・正木和明, 「東南海地震に対応可能なリアルタイム地震情報配信システムの開発」, 68万円, 愛知工業大学教育・研究特別助成, 2009年6月～2010年3月

【奥川雅之】

- ・奥川雅之, 「路面凍結防止剤散布作業実績報告支援システムを有する小型散布機の開発」, 114万円, 岐阜県研究開発財団産学官共同研究助成事業, 2009年6月～2010年3月
- ・奥川雅之, 「アスファルト舗装補修作業支援ロボットの開発」, 199万円, 岐阜県中小企業技術開発促進事業費補助金(2009), 2009年7月～2010年3月

・奥川雅之,「ボルト締結体の緩み評価診断を目的としたスマートワッシャの開発」, 200万円, JST シーズ発掘試験, 2009年7月～2010年3月

【西村雄一郎】

- ・2008(平成20)～2009(平成21)年度 科学研究費補助金(若手研究(B) 課題番号20720230, 研究代表者:西村雄一郎),「プローブパーソン調査による産業都市世帯の日常生活に関する時間地理学的研究」研究代表者.
- ・2006(平成18)～2009(平成21)年度 科学研究費補助金(基盤研究(A) 課題番号18251012, 研究代表者 野間晴雄),「東南アジア平原地帯における複合的な資源利用とその持続的発展に関する研究」研究分担者.
- ・2008(平成20)～2010(平成22)年度 科学研究費補助金 基盤研究C 課題番号19310118, 研究代表者:片岡博美) 研究課題名「エスニック集団の生活活動空間の分析とその応用に関する研究」研究分担者.

【廣内大助】

- ・研究代表者 廣内大助「時間スケールに応じた活断層の構造発達と移動過程の解明」 文部科学省 科学研究費補助金 若手研究(B)平成21～22年度 2,470千円
- ・研究代表者 今泉俊文(連携研究者として参加)「変動地形マッピングに基づく伏在活断層・活褶曲と地震発生様式の解明」文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究(A)平成21～25年度 16,640千円
- ・名古屋大学受託研究 活断層詳細位置図作成研究 平成21年度 530千円

●業績リスト

○著書

【阿部亮吾】

- ・阿部亮吾:「フィリピン・パプ空間の神話と構造」, 神田孝治編著『レジヤの空間—諸相とアプローチ』, ナカニシヤ出版, pp174 - 182 (2009.10)

【安江健一】

- ・Saegusa, H., Yasue, K., Onoe, H., Moriya, T. and Nakano, K.:「Numerical assessment of the influence of topographic and climatic perturbations on groundwater flow conditions」, In Stability and Buffering Capacity of the Geosphere for Long-term Isolation of Radioactive Waste: Application to Crystalline Rock, edited by Nuclear Energy Agency, Workshop Proceedings Manchester, United Kingdom 13-15 November 2007, Organization for Economic Co-operation and Development (OECD), ISBN978-9-26406-057-9, Paris. p269-276 (2009.4)

○論文(審査付)

【正木和明】

- ・佐口浩一郎, 正木和明, 入倉孝次郎,「強震時における解放基盤面の地震動の推定」, 日本建築学会構造系論文集, 第74巻, 第639号, pp.831-839 (2009.5)

【入倉孝次郎】

- ・赤澤隆士, 入倉孝次郎, 岡崎敦, 羽田浩二: 時間領域における経験的地盤増幅特性評価手法の開発, 日本建築学

会構造系論文集, 第74巻, 第638号, 611-618 (2009.4)

【建部謙治】

・建部謙治, 田村和夫, 高橋郁夫:「大地震時における中小企業の経営的被害の簡易予測に関する研究」, 日本建築学会構造系論文集, No.644, pp.1879-1885 (2009.10)

【阿部亮吾】

・阿部亮吾:「日本の雑誌メディアにおけるフィリピン人女性像の通時的分析」, 多文化共生研究年報, 第6号, pp39 - 58 (2009.3)

【西村雄一郎】

・若林芳樹・西村雄一郎「『GIS と社会』をめぐる諸問題—もう一つの地理情報科学としてのクリティカル GIS—」地理学評論. 2010 (平成22). 83-1, 60-79.

・Yuichiro Nishimura, Kohei Okamoto and Somkhit Boulidam. Time-geographic Analysis on Natural Resource Use in a Village of the Vientiane Plain. Southeast Asian Studies. 2010 (平成22) . 47-4, 426-450.

【廣内大助】

・鈴木康弘・杉戸信彦・坂上寛之・内田主税・渡辺満久・澤 祥・松多信尚・田力正好・廣内大助・谷口薫:「糸魚川—静岡構造線活断層情報ステーション— web-GIS ベースのシステム構築とその意義—」, E-journal GEO. vol1.4(1)P37-46, 2009

・廣内大助:「市民活動を通じて水害被災地域に構築される新たな災害文化」, 国立歴史民俗博物館研究報告, 156, p57-70, 2010.3.15

・太田陽子・渡辺満久・谷口薫・鈴木康弘・澤 祥・田中真弓・鈴木郁夫・廣内大助・金幸隆:「トレンチ調査からみた十日町盆地東縁断層の変位様式と活動履歴」, 地学雑誌, 119-1, p102-120, 2010

【安江健一】

・丹羽雄一, 須貝俊彦, 大上隆史, 田力正好, 安江健一, 齊藤龍郎, 藤原 治:「濃尾平野西部の上部完新統に残された養老断層系の活動による沈降イベント」, 第四紀研究, 48, p339-349 (2009.10)

○論文 (研究報告集・紀要等)

【入倉孝次郎】

・鶴来雅人, 香川敬生, 入倉孝次郎:地殻内地震の応力パラメータに関する基礎的研究 — 2003年宮城県北部地震および2005年福岡県西方沖地震—, Vol.55A, CD-ROM, 7-2, 2009.

・松島信一, 室谷智子, 吾妻崇, 入倉孝次郎, 北川貞之:「内陸地殻内の長大断層で発生する地震に関するスケールリング則」, 北海道大学地球物理学研究報告, No.73, 117-127, (2010.3)

【建部謙治】

・建部謙治, 田村和夫, 高橋郁夫, 南部世紀夫:「企業防災カルテ」, 「私立大学学術研究高度化推進事業」, 産学連携研究推進事業, 地震情報活用と防災拠点形成による地域防災力向上技術開発, 愛知工業大学地域防災研究セ

ンター ,pp.89-94 (2009.5)

・小橋勉, 建部謙治:「BCP 概念図を利用した防災経営診断」,「私立大学学術研究高度化推進事業」、産学連携研究推進事業,地震情報活用と防災拠点形成による地域防災力向上技術開発,愛知工業大学地域防災研究センター ,pp.95-101 (2009.5)

・建部謙治, 田村和夫, 高橋郁夫:「大地震時における中小企業の経営的被害の簡易予測」,「私立大学学術研究高度化推進事業」、産学連携研究推進事業,地震情報活用と防災拠点形成による地域防災力向上技術開発,愛知工業大学地域防災研究センター ,pp.102-111 (2009.5)

【奥川雅之】

・奥川雅之:「ものづくりリテラシーとロボット技術教育」, 機械の研究, Vol. 61, No. 9, pp. 865-870, (2009.9)

【阿部亮吾】

・阿部亮吾:「外国人労働者の地震災害意識調査－東海地方の製造業A社を事例に－」, 愛知工業大学地域防災研究センター編『地域防災研究センター年次報告書 Vol.5』愛知工業大学地域防災研究センター, pp59 - 63 (2009.5)

○その他（報告書など）

【倉橋奨】

・倉橋奨, 正木和明, 入倉孝次郎, 巨大地震に対応した高精度リアルタイム地震動情報の伝達システムの構築（科学研究費補助金（基盤研究（B）平成19年度～平成21年度）研究代表者：堀内茂木防災科研）内のローカルサイトを利用した巨大地震に対応した緊急地震速報の開発, p115-p130, 2009

【廣内大助】

・岡田篤正・熊原康博・後藤秀昭・杉戸信彦・鈴木康弘・堤浩之・中田高・廣内大助（筆頭以外アイウエオ順）:「1:25000 都市圏活断層図「亀山」」, 国土地理院技術資料D・1-No.540, 2009,12,24

・中田高・岡田篤正・熊原康博・後藤秀昭・杉戸信彦・鈴木康弘・千田昇・堤浩之・廣内大助（筆頭以外アイウエオ順）:「1:25000 都市圏活断層図「松阪」」, 国土地理院技術資料D・1-No.540, 2009.12.24

○学会発表・プロシーディングス

【正木和明】

・Kazuaki Masaki, Yuichiro Nishimura, Susumu Kurahashi and Kijiro Irikura “EEW distribution network developed by Disaster Prevention Research Center, AIT”, Proc. of the 2nd Int. Workshop on Earthquake Early Warning, p.55, April 21-22, Kyoto (2009.4)

Yuichiro Nishimura, Mikio Komatsu, Hiromitsu Ochiai and Kazuaki Masaki, “EEW for Tokai industrial region-application to the manufacturing industry and these effects”, Proc. of the 2nd Int. Workshop on Earthquake Early Warning, p.60, April 21-22, Kyoto (2009.4)

・kazuaki Masaki, Takenori Ueda, Susumu Kurahashi and Kojiro Irikura, “Improvement of earthquake early

warning-Intensity estimation from Initial Part of P-wave-“, 日本地球惑星科学連合 2009 年大会予稿集, Y230-008, CD-ROM, 幕張メッセ (2009.5)

・ Susumu Kurahashi, Kojiro Irikura and Kazuaki Masaki, “Basic study for developing of the earthquake early warning for great earthquakes-case of ground motions in large earthquakes-“, 日本地球惑星科学連合 2009 年大会予稿集, Y230-005, CD-ROM, 幕張メッセ (2009.5)

・ Xin Wang, Susumu Kurahashi, Kazuaki Masaki and Kojiro Irikura, “Building damage and strong motion characteristics during the 2008 Wenchuan Earthquake”, Int. symposium on earthquake seismology and earthquake Predictability, Beijing, July 5-8, (2009.7)

・ 王欣, 正木和明, 入倉孝次郎, 倉橋奨, 「四川地震における建築被害と強震動の関係」, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (東北), DVD, 21148, pp.295-296 (2009.8)

・ 田頭庄三 (清水建設), 正木和明, 入倉孝次郎, 倉橋奨, 「超高層建築物の固有周期における常時微動測定と設計値との差分に関する研究」, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (東北), DVD, 21283, pp.565-566 (2009.8)

・ 王欣, 正木和明, 入倉孝次郎, 「2008 年四川地震の建物被害と強震動の関係」, 日本地震工学会大会 2009 梗概集, pp.212-213 (2009.11)

・ Kazuaki Masaki, Yuichiro Nishimura, Susumu Kurahashi and Kojiro Irikura, “Earthquake Early Warning distribution network developed by Disaster Prevention Research Center, AIT, Japan”, Proc. of 9th Int. Workshop on Seismic Microzonation and Risk reduction, Feb.21-24, Cuernavaca, Mexico (2010.2)

・ 佐口浩一郎, 正木和明, 「柏崎刈羽原子力発電所における 2007 年中越沖地震の 2 次元 FEM シミュレーション」, 土木学会中部支部研究発表会, I-58, (2010.3)

・ 王欣, 正木和明, 倉橋奨, 入倉孝次郎, 「四川地震被害地における建物の応答特性と被害の関係について」, 土木学会中部支部研究発表会, I-52, (2010.3)

【入倉孝次郎】

・ 入倉孝次郎, 倉橋奨, 「長大断層地震のための強震動予測レシピ - 四川大地震の強震動記録による検証 -」, 日本地震学会 2009 年秋季大会, A12-06 (2009.10)

【建部謙治】

・ 高橋郁夫, 建部謙治, 田村和夫: 「新潟県中越地震と能登半島地震の場合の比較」, 日本建築学会大会学術講演梗概集 B-2, pp. 285-286 (2009.8)

・ 宮下邦義・建部謙治・田中賢, 吉田健: 「住宅における防犯意識とプライバシーに関する研究」, 日本建築学会大会学術論文梗概集 F-1、pp.965-966 (2009.8)

【奥川雅之】

・ 奥川雅之, 高井優介, 椋木新, 小林義光: 「機械安全を考慮した自己復元機構を有する倒立振子型移動ロボットの設計および姿勢角制御」, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会 ROBOMECH2009 講演論文集 (DVD-ROM), 2P1-F03, (2009.5)

・ 奥川雅之: 「ロボット構造材料利用を目的とした CNT/PVDF 複合材の諸特性評価」, 日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2009 講演論文集 CD-ROM, Paper No. 130, (2009.8)

・ 奥川雅之: 「ボルト締結体の緩み評価および診断」, 日本機械学会第 8 回評価・診断に関するシンポジウム講演論文集, PP. 114-119, (2009.12)

- ・奥川雅之：「レスコンシーズへのマイコン導入検討」，計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会（SI2009）論文集 DVD-ROM, pp. 670-671, (2009.12)
- ・土井智晴，奥川雅之，宗澤良臣，山内仁：「第9回レスキューロボットコンテストの総括」，計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会（SI2009）論文集 DVD-ROM, pp. 1983-1986, (2009.12)
- ・藤岡潤，沖俊任，佐竹洋輔，奥川雅之，山内仁，神代充，レスキューロボットコンテスト実行委員会：「レスキューロボットコンテストにおけるレスキューダミーの個体識別の導入とその分析」，計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会（SI2009）論文集 DVD-ROM, pp. 1991-1993, (2009.12)
- ・三輪昌史，二井見博文，田中亨，喜多功次，奥川雅之，片山雄二：「レスキューロボットコンテストにおける TPIP ボードと無線 LAN の活用事例」，計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会（SI2009）論文集 DVD-ROM, pp. 1994-1996, (2009.12)
- ・片山雄二，岩田直樹，奥川雅之：「レスキューロボットコンテストにおける遠隔操作 IP システム」，計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会（SI2009）論文集 DVD-ROM, pp. 2003-2006, (2009.12)
- ・椋木新，小林義光，奥川雅之：「自己復元機構を有する倒立振子型移動ロボットにおける姿勢角の推定」，計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会（SI2009）論文集 DVD-ROM, pp. 2104-2107, (2009.12)

【阿部亮吾】

- ・鶴本花織・阿部亮吾：「名古屋 Cultural Typhoon の試みと課題、そして未来への提案」，第7回 Cultural Typhoon（於：東京外国語大学）（2009.7）

【倉橋奨】

- ・Susumu Kurahashi, Kojiro Irikura, Kazuaki Masaki and Takenori Ueda, "Improvement of Earthquake Early Warning-Intensity Estimation from Initial Part of P-wave-", Proc. of the 2nd Int. Workshop on Earthquake Early Warning, p.58, April 21-22, Kyoto (2009.4)
- ・倉橋奨，入倉孝次郎，宮腰研（地域地盤環境研究所），正木和明，「2009年駿河湾を震源とする地震の震源モデルの構築と波形シミュレーション」，日本地震学会2009年秋季大会，P1-20 (2009.10)
- ・倉橋奨，入倉孝次郎，正木和明，「巨大地震に対応した緊急地震速報の高度化に向けて」，日本地震学会2009年秋季大会，A21-10 (2009.10)
- ・倉橋奨，入倉孝次郎，巨大地震に対応した緊急地震速報への高度化，大加速度・速度の強震動の生成と地震被害に関する研究集会，2010

【西村雄一郎】

- ・Yuichiro NISHIMURA, Kohei OKAMOTO and Somkhit BOULIDAM. Time-geographic analysis on natural resource use in a village of the Vientiane plain. The Association of American Geographers 2009 Annual Meeting, 2009（平成21）. 3. Las Vegas, Nevada.
- ・西村雄一郎・倉橋奨・落合鋭充・谷弘之・正木和明「東海地域におけるGISマッピングを用いた緊急地震速報の高度利用方法の提案」2009（平成21）. 10, 日本災害情報学会第11回学会大会. 静岡大学.
- ・Yuichiro Nishimura, Mikio Komatsu, Toshimichi Ochiai and Kazuaki Masaki. EEW for Tokai industrial region - application to the manufacturing industry and these effects. 2nd EEW Workshop in Kyoto, 2009（平成21）. 4. 京都大学宇治キャンパス.
- ・西村雄一郎「企業防災へのeコマウェアの適用と課題」2010（平成22）. 3. 『『新しい公共』を支える情報プ

ラットフォーム」 e コミウェアフォーラム設立記念シンポジウムライトニングトーク, 東京国際フォーラム.

・ Yuichiro Nishimura: Session Chair: Globalization, Greenness, and Time. The Association of American Geographers 2009 Annual Meeting, 2009. 3. Las Vegas, Nevada.

【廣内大助】

・ 後藤秀昭・杉戸信彦・廣内大助・鈴木康弘・D. Enkhtaivan, J. Sukhbaatar, and O. Batkhishig: 「モンゴル・ブルナイ断層中央部の平均変位速度と活動間隔」, 日本地理学会 2009 年春季学術大会 (帝京大学), 2009.3.28

大西宏治・廣内大助: 「洪水ハザードマップを用いた図上防災訓練 (DIG) の取り組み」, 日本地理学会 2009 年春季学術大会 (帝京大学) (2009.3.28)

・ 吉岡敏和・廣内大助・杉戸信彦・齊藤勝: 「高山・大原断層帯, 江名子断層, 牧ヶ洞断層, 宮川断層およびヌクイ谷断層の活動履歴」, 地球惑星科学連合 (幕張メッセ) (2009.5)

・ 吉岡敏和・廣内大助・杉戸信彦・齊藤勝: 「高山・大原断層帯, 牧ヶ洞, 江名子, 宮川およびヌクイ谷断層の活動履歴」, 地質調査総合センター (GSJ) 第 15 回シンポジウム (秋葉原コンベンションホール) (2009.7.2)

・ 根本泰雄・廣内大助・伊藤明彦・宮島敏・中島健・数越達也: 「(社) 日本地震学会が行う教員免許更新講習の進むべき道」, 日本地震学会 2009 年秋季学術大会 (京都大) (2009.10.22)

・ 中島健・廣内大助・伊藤明彦・根本泰雄・数越達也・宮島敏: 「平成 21 年度教員免許状更新講習および教員サマースクール「地震と活断層」の実施について」, 日本地震学会 2009 年秋季学術大会 (京都大) (2009.10.22)

・ 澤 祥・杉戸信彦・田力正好・谷口薫・廣内大助・鈴木康弘・糸魚川 - 静岡構造線活断層帯重点的調査観測・変動地形グループ: 「糸魚川 - 静岡構造線活断層帯北部: 池田町におけるボーリング調査をもとにした平均変位速度の推定」, 日本活断層学会秋季大会 (東洋大学) (2009.11)

・ 石黒聡士・杉戸信彦・後藤秀昭・鈴木康弘・廣内大助・D.Enkhtaivan・O.Batkhishing: 「CORONA 画像の実体視判読に基づく 1957 年 Gobi-Altay 地震の地表地震断層の認定」, 日本活断層学会秋季大会 (東洋大学) (2009.11)

・ Yoshioka,T.,Hirouchi, D.,Sugito, N. and Saito,M.: 「Paleoseismicity of the parallel -distributed faults in the Takayama-Oppara fault zone, central Japan」, HOKUDAN International Symposium on Active Faulting 2010,Hokudan,Japan(2010.1)

・ Goto.H., Sugito.N., Hirouchi.D., Suzuki.Y., Enkhtaivan.D., Sukhbaatar.J. and Batkhishig.O: 「Sliprate of faulting on the central portion of the 1905 Bulnay earthquake fault, Mongolia」, HOKUDAN International Symposium on Active Faulting 2010,Hokudan,Japan(2010.1)

・ 鈴木康弘・杉戸信彦・澤祥・渡辺満久・松多信尚・廣内大助・谷口薫・田力正好・石黒聡士・隈元崇・糸魚川 - 静岡構造線活断層帯重点的調査観測変動地形グループ: 「平均変位速度分布に基づく糸静線活断層帯の地震規模の推定 - 糸静重点的調査観測の成果 -」, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会 (幕張メッセ) (2010.5)

・ 杉戸信彦・鈴木康弘・坂上寛之・内田主税・糸魚川 - 静岡構造線活断層帯重点的調査観測変動地形グループ (廣内大助ほか): 「糸静線活断層帯南半部 (茅野~ 鰍沢) の変動地形 GIS データとそのオンライン公開」, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会 (幕張メッセ) (2010.5)

・ 吾妻崇・谷口薫・廣内大助・佐藤賢・後藤憲央・柳田誠・長尾秀孝・今吉隆: 「横手盆地東縁断層帯 (南部) の活動履歴と地下構造」, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会 (幕張メッセ) (2010.5)

・ 廣内大助・石山達也・鈴木毅彦・今泉俊文・阿部恒平・鎌滝孝信: 「群列ボーリング調査による高田平野西縁断層帯の上下平均変位速度」, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会 (幕張メッセ) (2010.5)

【安江健一】

- ・鎌滝孝信, 立石 良, 安江健一:「衛星データを用いた簡便な解析による堆積盆抽出の試み」, 日本地質学会第 116 年学術大会講演要旨, p270. (2009.9)
- ・小坂 寛, 三枝博光, 草野友宏, 安江健一, 竹内竜史, 田力正好, 尾上博則, 塩見哲也:「東濃地域を事例とした地形変化および気候変動による地下水流動特性の長期的変化の推定に関わる方法論の構築(その2)ー地形変化および気候変動を考慮し地下水流動のモデル化・解析ー」, 日本地下水学会 2009 年秋季講演会要旨, p338-343. (2009.10)
- ・野原 壯, 田力正好, 安江健一, 草野友宏:「河成段丘の分布に基づく地下水流動の長期的変化の傾向の推定」, 日本地球惑星科学連合大会予稿集, G122-P002. (2009.5)
- 尾上博則, 塩見哲也, 草野友宏, 安江健一, 小坂 寛, 三枝博光, 竹内竜史, 田力正好:「東濃地域を事例とした地形変化および気候変動による地下水流動特性の長期的変化の推定に関わる方法論の構築(その1)ー調査データに基づく過去数十万年の古地形・古気候の推定および地質構造のモデル化ー」, 日本地下水学会 2009 年秋季講演会要旨, p332-337. (2009.10)
- ・田力正好, 安江健一, 杉山真二, 高田圭太, 加藤孝幸, 須貝俊彦, 守田益宗, 古澤 明:「植物珪酸体分析に基づく段丘地形の形成環境の復元:利根川支流, 鎚川流域の例」, 日本地球惑星科学連合大会予稿集, Q145-P008. (2009.5)
- ・Yasue, K, Doke, R., and Ishimaru, T.:「Developing process of active fault system in the west-central Japan」, Eos Trans. AGU, 90 (52), Fall Meet. Suppl., Abstract, T33B-1884. (2009.12)
- ・安江健一, 郷津知太郎, 柳田 誠:「複数の手法による未固結堆積物の古流向解析の例」, 日本地質学会第 116 回学術大会講演要旨, p224. (2009.9)